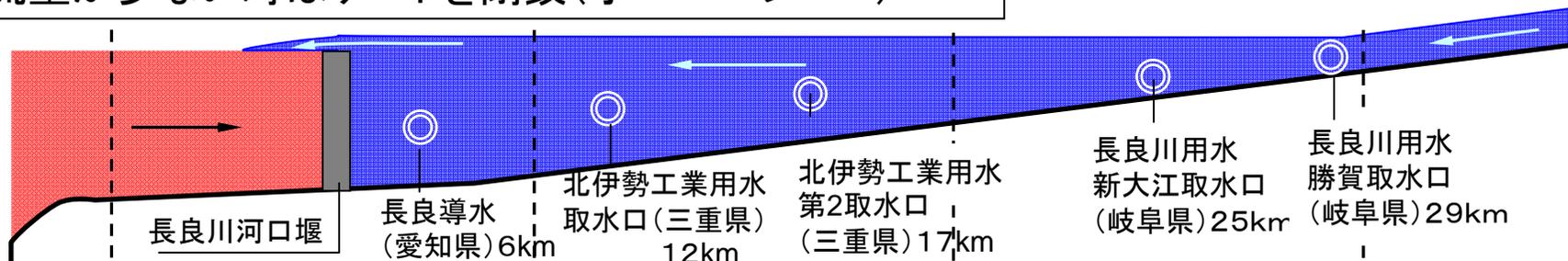
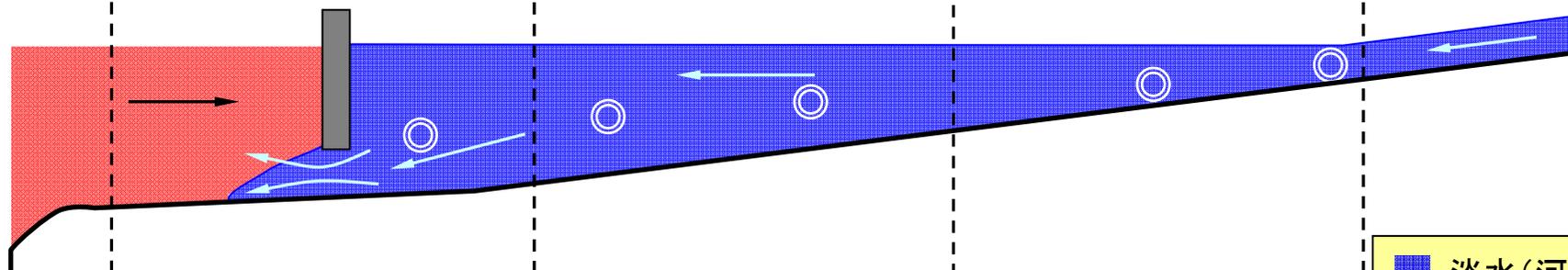


現在の長良川河口堰操作 概要

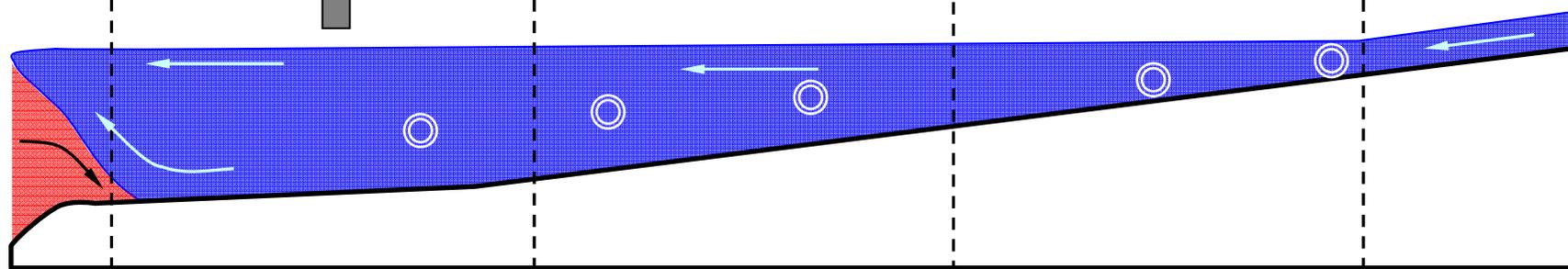
流量が少ない時はゲートを閉鎖(オーバーフロー)



流量が比較的多い時はアンダーフロー



流量が800m³/sを越える洪水時はゲートを全開



Legend:

- Blue stippled pattern: 淡水(河川水)
- Red stippled pattern: 塩水
- Circle with a dot: 取水口

河口

10km

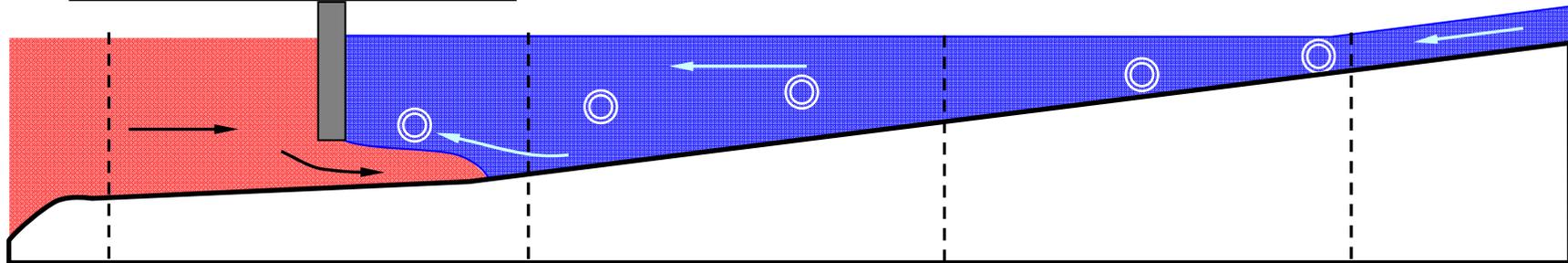
20km

30km

作図: 竹村

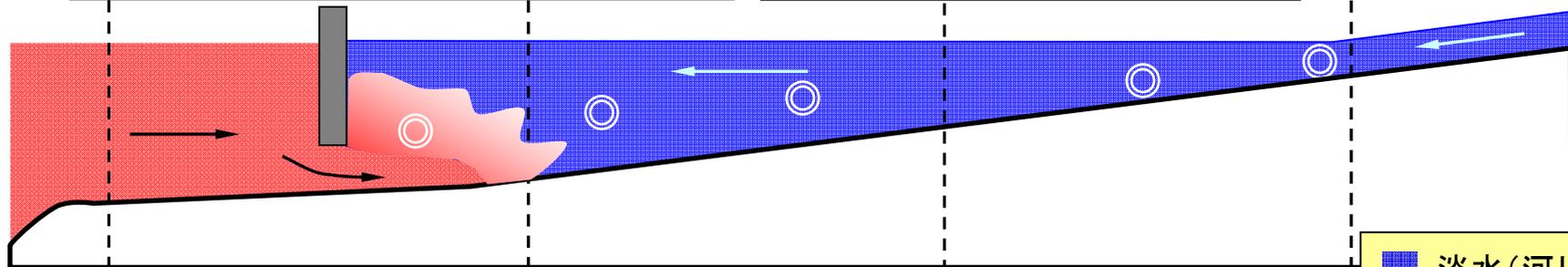
流量が少ない時にアンダーフローができない理由

ゲートから塩水が浸入

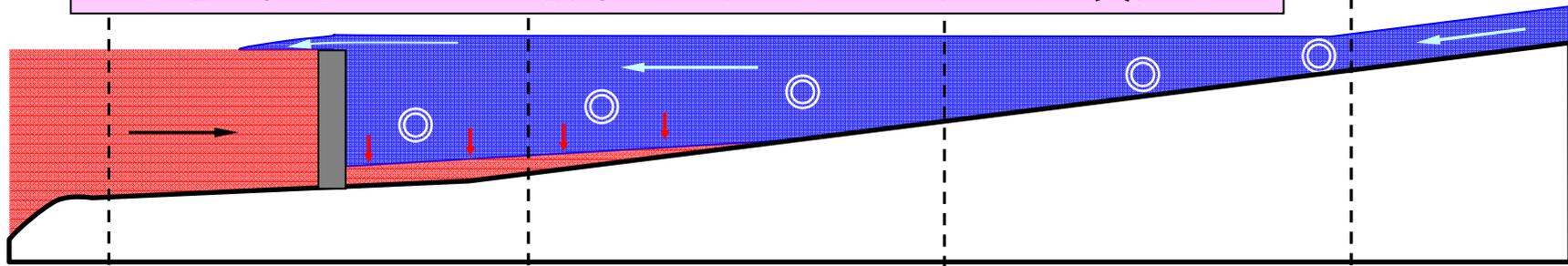


浸入した塩水が上流で拡散し残留

直近の長良導水がダメージ



塩水を残留させてゲートを閉じると、塩水が河床に沈み貧酸素化



- 淡水(河川水)
- 塩水
- 取水口

河口

10km

20km

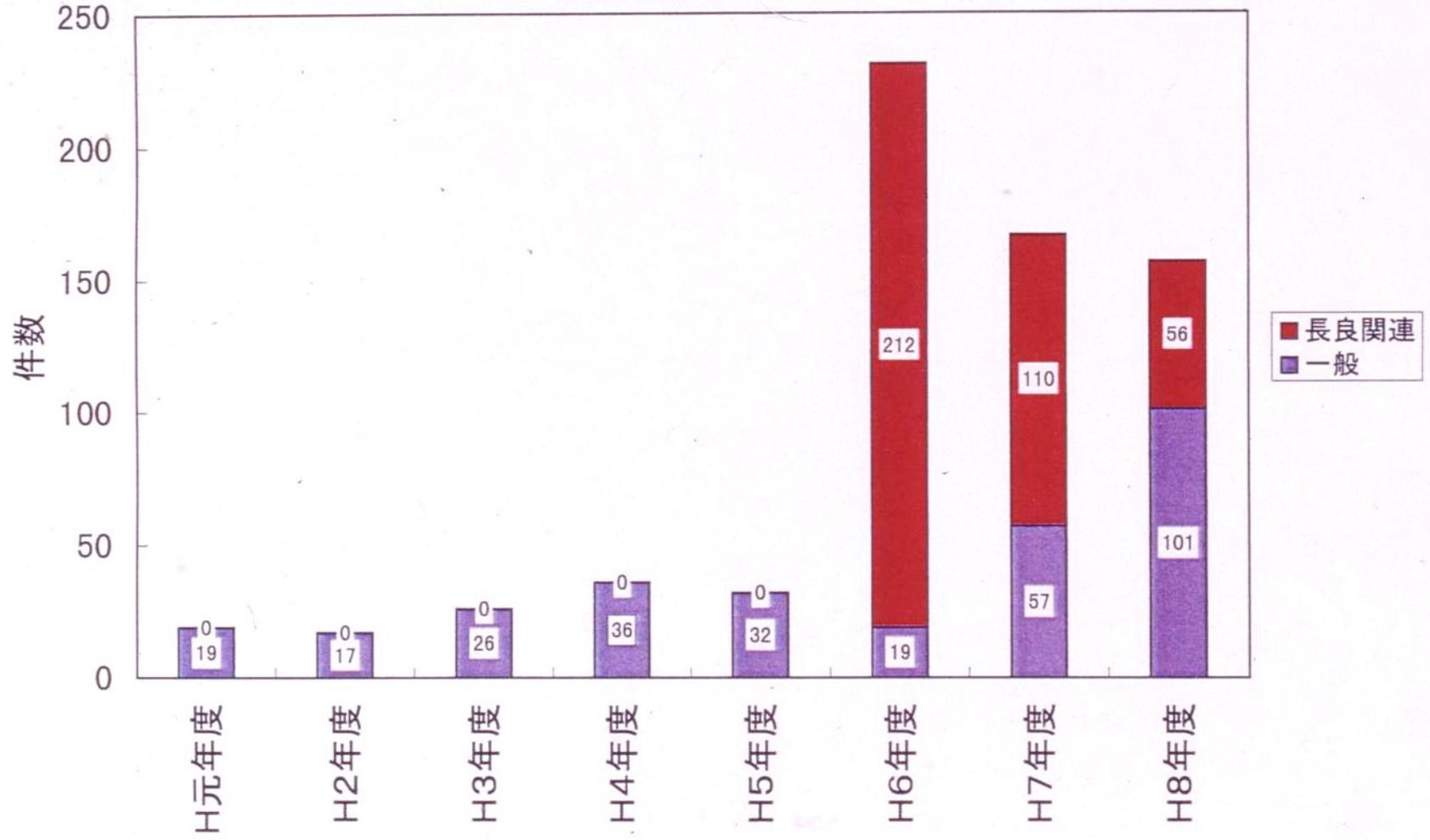
30km

作図: 竹村

情報公開、説明責任

図-17

中部地方建設局河川部 記者発表件数



長良川河口堰の更なる弾力的な運用について

弾力的な運用に関する地域との意見交換の場

長良川上流(H4～)

- 長良川河口堰調査検討会(24人)
(平成23年2月21日(月)開催予定)
学識経験者、各種団体の代表者、県・市町村関係者
事務局:岐阜県
※中部地方整備局、水資源機構は、事業者として参加。
 - 長良川河口堰県民調査団(約60人)
(平成22年11月22日(月)開催)
長良川河口堰調査検討会委員、漁業協同組合、
土地改良事業団連合会、市町議会議員、水防団、
消防団、婦人会、公募
※検討会設置要綱第4条に基づき編成。

長良川下流

- 長良川河口堰の弾力的な運用に関する意見交換会
(平成23年3月～)
- ▼沿川の地方公共団体
三重県、桑名市、愛知県、愛西市
- ▼利水関係者
三重県(中勢水道、北伊勢工業用水)、桑名市(長島町かんがい等)、愛知県(長良導水)、立田村土地改良区(福原用水)、名古屋市(未利用)
- ▼農業関係者
長島町土地改良区、立田村土地改良区
- ▼漁業関係者
漁業協同組合等

など

事務局:中部地方整備局、水資源機構

中部地方整備局 水資源機構

平成23年4月から
更なる弾力的な運用を開始

説明

意見

説明

意見

学識経験者からの意見聴取の場

【既設】中部地方ダム等管理フォローアップ委員会

委員長	藤田 裕一郎	岐阜大学教授
委員	石田 典子	名古屋女子大学教授
	沖野 外輝夫	信州大学名誉教授
	奥野 信宏	中京大学教授
	駒田 格知	名古屋女子大学教授
	西條 好迪	岐阜大学准教授
	杉戸 大作	(財)廃棄物研究財団理事長
	辻本 哲郎	名古屋大学大学院教授
	中村 浩志	信州大学教授
	長谷川 明子	ビオトープを考える会会長
	松尾 直規	中部大学教授

【新たに設置】長良川河口堰の 弾力的運用に関するモニタリング部会

- 長良川河口堰の弾力的な運用に関するモニタリング部会
(平成23年3月開催予定)
- ▼学識経験者
治水、水質、底質、魚類、底生動物、利水(かんがい、水道、工業)、農業等の学識経験者
- ▼その他
必要に応じて、利水関係者、農業関係者、漁業関係者等の代表者を招集。

※委員会規約第7条に基づく「モニタリング部会」。

出典:中部地方整備局